

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

項目1. 化学物質等及び会社情報

製品情報

製品名 : Marlex® D139 Polyethylene
材質 : 1115749, 1120049, 1120048, 1120047, 1120046, 1120045,
1017055, 1018952, 1018950, 1034003, 1018953, 1019500,
1018951, 1019501, 1018267, 1018271, 1019497, 1019496,
1019499, 1018954, 1019498, 1018949

会社名 : シェブロンフィリップス化学株式会社
10001 Six Pines Drive
The Woodlands, TX 77380

緊急連絡電話番号:

健康:

866. 442. 9628 (北米)

1. 832. 813. 4984 (国外)

輸送:

CHEMTREC 800. 424. 9300 または 703. 527. 3887 (国際電話)

アジア: CHEMWATCH (+612 9186 1132) 中国: 0532 8388 9090

ヨーロッパ: BIG +32. 14. 584545 (電話) または +32. 14583516 (ファックス)

メキシコ CHEMTREC 01-800-681-9531 (24時間)

南米 SOS-Cotec ブラジル国内: 0800. 111. 767 ブラジル国外: +55. 19. 3467. 1600

アルゼンチン: +(54)-1159839431

担当部門 : 製品安全性および毒性グループ
電子メールアドレス : SDS@CPChem.com
ウェブサイト : www. CPChem.com

医療に適用する場合の注意: 医療アプリケーション内で本物質を人体への永久的移植または体内の体液、組織の体液あるいは組織への永久的接触を伴う医学的応用に使用しないこと。本物質を本物質の計画的な使用を明白に確認した契約に基づき本物質が Chevron Phillips Chemical Company LP または合法的な関連会社から直接提供されない限り、簡単なまたは一時的な人体への移植または体内の体液または組織との接触に関連する医療には本物質を使用しないこと。Chevron Phillips Chemical Company LP または合法的な関連会社は、人体への移植または体内の体液または組織との接触に本物質を使用する際の適合性に関していかなる表明、約束、明白な保証あるいは暗黙の保証を行わない。

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

2. 危険有害性の要約

物質または混合物の分類

JIS Z7252-2014 及び JIS Z7253-2012 に 従った GHS 分類及びラベル表示 (GHS 2011)

分類

危険な物質や混合物ではありません。

ラベル付け

危険な物質や混合物ではありません。

3. 組成及び成分情報

化学名	CAS番号	含有量	化審法 (ENCS)/安衛法 (ISHL) 番号
Polyethylene Hexene Copolymer	25213-02-9	99 % - 100%	6-1594

GHS(世界調和システム) によれば危険有害性成分は含まれていない。

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 過熱や燃焼で発生した粉じんや煙霧を誤って吸入した場合は、新鮮な空気のある場所に移す。症状が持続する場合は、医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 : 溶融した物質が皮膚に付いた場合には、すぐに水で冷やすこと。すぐに医師の診断を受けること。固化した物質を皮膚から剥がそうとしたり、溶剤やシンナーを使って溶かそうとしたりしないこと。
- 眼に入った場合 : 眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗浄し、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 医師の指示がない場合は吐かせない。

5. 火災時の措置

- 引火点 : データなし
- 自然発火温度 : データなし
- 適切な消火剤 : 水、水噴霧、粉末消火剤、二酸化炭素 (CO2)、泡。これは表面燃焼物質であるので、可能な場合は噴霧ノズルから噴霧すること。高速度で水をかけると燃焼している表面層が広がる場合がある。粉塵雲や粉塵爆発を発生させる可能性がある棒状注

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

- 水の使用は避ける。現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
- 特有の危険有害性 : 粉塵が床や棚などに堆積すると、発火して、炎が燃え広がったり、二次爆発が発生する恐れがある。
- 消火を行う者の保護 : 保護具を使用する。消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。
- 詳細情報 : 本物質は簡単に着火しないが燃焼する。
- 火災および爆発の防止 : 可燃性固体として取り扱うこと。粉塵の生成を避けること。空気中に拡散した微細な粉塵の濃度が一定の水準に達し、発火源が存在する場合、粉塵爆発の危険性がある。
- 危険有害な分解生成物 : 通常の燃焼では二酸化炭素、水蒸気が生成され、温度と通気状態によっては一酸化炭素、他の炭化水素物および炭化水素酸化物（ケトン、アルデヒド、有機酸）が生成される場合がある。不完全燃焼によって、ホルムアルデヒドが発生する可能性もある。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する予防措置 : 滑らないようにするために、掃く。粉じんを吸い込まないように留意。粉じんの発生を避ける。
- 環境に対する注意事項 : 表流水を汚染してはならない。製品を排水施設に流してはならない。
- 除去方法 : 直ちに掃くか、吸引機で吸い取る。
- 追加アドバイス : 粉塵が一定水準以上の濃度で空気中に放出された場合、粉塵堆積物は爆発性混合物を生成する可能性があるため、物質表面に堆積させてはならない。空気中への粉塵の拡散を避けること（例：粉塵の堆積した物質表面を圧縮空気清掃するなど）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 安全取扱注意事項 : 本製品の安全な取り扱いのため、適切な維持管理を行うこと。水源と下水管を避けること。流出したペレットで滑る危険がある。本物質を取り扱う際に、静電気が蓄積し危険な状態となることがある。この危険性を最小限に抑えるために、接合・接地が必要になる場合があるが、それだけでは十分ではない場合もある。静電気の帯電や引火性環境が発生する可能性のあるすべての作業（タンクおよび容器の充填、飛沫式充填、タンク洗浄、試料採取、計量、負荷切替、フィルタリング、混合、攪拌、およびバキュームトラック操作など）を見直し、適切な軽

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

減対策を施す必要がある。詳細については、「米国労働安全衛生局（OSHA）第29条連邦規則集（CFR）1910.106項「可燃性、引火性液体」、「全米防火協会「静電気に関する推奨作業基準（NFPA 77）」、および「2003年度米国石油協会（API）推奨基準、「静電気、電光、迷走電流による発火防止」」を参照のこと。温度（>350° F、>177° C）で、ポリエチレンは蒸気とガスを放出することがあり、目、口、のどおよび肺の粘膜を刺激する。これらの物質には、アセトアルデヒド、アセトン、酢酸、蟻酸、ホルムアルデヒドおよびアクロレインなどがある。動物実験データおよび限られた疫学的証拠に基づき、ホルムアルデヒドは発がん性物質として分類されている。このSDSに示すすべての勧告に従って、熱処理排出への暴露を最小限に抑える必要がある。

火災及び爆発の予防 : 可燃性固体として取り扱うこと。粉塵の生成を避けること。空气中に拡散した微細な粉塵の濃度が一定の水準に達し、発火源が存在する場合、粉塵爆発の危険性がある。

保管

保管場所および容器の必要 : 乾燥した場所に保管する。換気のよい場所で保管する。
条件

一般的な保管について : 酸化性および自己発火性製品と共に保存しない。

8. ばく露防止及び保護措置**設備対策**

工学的制御の設計や個人用保護具の選択の際には、本物質の潜在的危険性（第2節参照）、適用される曝露限度、作業活動、および作業場にあるその他の物質を考慮すること。工学的制御または作業方法が、本物質の有害レベルにおける曝露の予防に十分でない場合には、以下の個人用保護具を使用することが推奨される。保護は通常、限定的な時間または一定の状況下に対して提供されるものであるため、ユーザは装置に付属するすべての指示事項および制限事項を読んで理解しておくこと。

保護具

呼吸用保護具 : 通常、呼吸用保護具は不要である。加熱した物質により蒸気、煙霧など、換気により適切に制御されない物質が生成される場合は、適切な呼吸器を着用すること。濾過式呼吸器には、以下を使用のこと：有機蒸気およびホルムアルデヒド。制御されていない放出、エアロゾル化の可能性、曝露レベルが不明な場合、または空気清浄呼吸器では十分な保護が得られない可能性があるその他の状況では、陽圧、空気供給式の呼吸器を使用してください。
・総粉塵の濃度が10 mg/m³以上の場所では防塵マスクが推奨される。

眼の保護具 : 固体の取扱いに際し、サイドシールド付き保護眼鏡を使用する

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

- ことは、作業場での適切な作業規範である。本物質が加熱されている場合には、化学用ゴーグル、サイドシールド付き保護眼鏡、またはフェイスシールドを着用のこと。粉塵が発生する可能性がある場合には、化学用ゴーグルを着用のこと。
- 皮膚及び身体の保護具 : 室温で清潔な保護衣を着用することは、作業場での適切な作業規範である。物質が加熱または溶融されている場合、溶融された製品の温度に耐え得る断熱の耐熱手袋を着用すること。本物質が加熱されていて、適切な工学的制御または作業方法を行えない場合には、断熱用衣服を着用して皮膚への接触を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

基礎物理および化学特性の情報

外観

- 形状 : ペレット
 物理状態 : 固体
 色 : 不透明な
 臭い : 軽度の臭い～無臭
 臭いのしきい(閾)値 : データなし

安全性データ

- 引火点 : データなし
- 爆発範囲の下限 : 適用されない
- 爆発範囲の上限 : 適用されない
- 自然発火温度 : データなし
- 熱分解 : 熱処理時には低分子重量の炭化水素、アルコール、アルデヒド、酸およびケトンが発生することがある。
- pH : 適用されない
- 融点/ 範囲 : 90-140-C (194-284-F)
- 凝固点 : 適用されない
- 沸点, 初留点及び沸騰範囲 : 適用されない
- 蒸気圧 : 適用されない
- 比重 : 適用されない
- 密度 : 0.91 - 0.97 g/cm³

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

このポリエチレングレードの密度などの公称物理的特性に関する詳細については、技術データシート（TDS）を参照のこと。

水溶性	: 無視できるほど僅か
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: データなし
溶媒に対する溶解性	: データなし
粘度(粘性率)	: 非該当
動粘度(動粘性率)	: 適用されない
相対蒸気密度	: 適用されない
蒸発速度	: 適用されない
粉塵爆燃指数Kst	: > 0.0 m.b./s

10. 安定性及び反応性

反応性	: 本物質は、通常の外気および予想される保管・取り扱い条件の温度および圧力下で、非反応性であると考えられる。
化学的安定性	: この材料は、通常の周囲温度と予想されるストレージの下に安定したと見なされ、温度や圧力の条件を処理する。
危険有害反応可能性	
危険有害反応可能性	: 危険有害反応可能性: 知見なし。
避けるべき条件	: 高温で長期保存しないこと。 .
混触禁止物質	: 強力な酸化剤との接触を避けること。 .
熱分解	: 熱処理時には低分子重量の炭化水素、アルコール、アルデヒド、酸およびケトンが発生することがある。
危険有害な分解生成物	: 通常の燃焼では二酸化炭素、水蒸気が生成され、温度と通気状態によっては一酸化炭素、他の炭化水素物および炭化水素酸化物（ケトン、アルデヒド、有機酸）が生成される場合がある。不完全燃焼によって、ホルムアルデヒドが発生する可能性もある。

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

その他のデータ : 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。

11. 有害性情報

**Marlex® D139 Polyethylene
急性毒性（経口）** : 推定無毒性

**Marlex® D139 Polyethylene
急性毒性（吸入）** : 推定無毒性

**Marlex® D139 Polyethylene
急性毒性（経皮）** : 推定無毒性

**Marlex® D139 Polyethylene
皮膚刺激性** : 皮膚刺激なし

**Marlex® D139 Polyethylene
眼への刺激** : 眼への刺激なし

**Marlex® D139 Polyethylene
感作性** : 動物実験では感作性なし。

**Marlex® D139 Polyethylene
詳細情報** : 本製品は重合オレフィンを含む。熱処理時 (>350° F、>177° C) に、ポリオレフィンは、目、口、のど、肺の粘膜に対する刺激性の蒸気とガス（アルデヒド、ケトンおよび有機酸）を放出する可能性がある。通常、これらの刺激作用はすべて一過性である。しかし、刺激性のある排ガスへの長期にわたる曝露は肺水腫を生じる場合がある。動物実験データおよび限られた疫学的証拠に基づき、フォルムアルデヒドは、ガンを発生させる可能性のある物質として分類されている。

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性 : 非該当

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 : データなし

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

生分解性	: 本物質の即時的な生物分解性は期待できない。
残留性、分解性	
生体蓄積性	: 生物濃縮されない。
移動性	: 製品は不溶性で水に浮きます。
PBT アセスメントの結果	: 分類されていない vPvB (極めて難分解性で高い生物蓄積性) 物質
生態系に関する追加情報	: 本物質は水生生物に有害であると考えられません。、魚または鳥がペレットを食べると消化管を詰まらせる恐れがある。
環境毒性アセスメント	
水生環境有害性 短期 (急性)	: 本製品には既知の生体毒性は無い。
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 本製品には既知の生体毒性は無い。

13. 廃棄上の注意

このSDSの情報は、出荷される製品のみに関連する。

本物質は意図された目的に使用し、可能であれば再生利用すること。廃棄する必要がある場合、本物質は、RCRA (40 CFR 261) に基づき米国EPAに定義された、またはその他の州や地方自治体により定義された、有害廃棄物の基準が適用されることがある。適切な判断を下すために、所定の物理的性質の測定および規制対象物質の分析が必要な場合がある。本物質が有害廃棄物として分類されている場合には、連邦法により認可済みの危険廃棄物処理施設にて廃棄することが義務付けられている。

14. 輸送上の注意

ここに示される輸送の説明はバルク輸送に関するもののみであり、それ以外の包装済み製品輸送には適用されない (規制の定義を参照)。

他の輸送説明要件 (専門的名称など) については、米国内外モードに特有、および量に特有の、適切な危険物取扱規定を調べる。従って、ここに示す情報は本物質に対する船荷証券輸送記述に必ずしも一致しないことがある。物質の引火点は、SDSと船荷証券との間にわずかな違いがあることがある。

US DOT (米国運輸省)

この機関により輸送用の有害物質または危険貨物として規制されてはいない。

IMO/IMDG (国際海洋危険物)

この機関により輸送用の有害物質または危険貨物として規制されてはいない。

IATA (国際航空輸送協会)

この機関により輸送用の有害物質または危険貨物として規制されてはいない。

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

ADR（危険物の道路輸送に関する欧州協定）

この機関により輸送用の有害物質または危険貨物として規制されていない。

RID（危険物の国際輸送に関する欧州規則）

この機関により輸送用の有害物質または危険貨物として規制されていない。

ADN（危険物の国際内陸水路輸送に関する欧州協定）

この機関により輸送用の有害物質または危険貨物として規制されていない。

MARPOL 73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

15. 適用法令**既存化学物質リスト**

欧州 REACH	:	本製品はREACH規則1907/2006/ECに完全に順守しています。
スイス CH INV	:	インベントリーに記載されているか、従っている
アメリカ合衆国（米国） TSCA	:	TSCA インベントリーの有効部分に基づくか、または準拠している
カナダ DSL	:	本製品中の成分は全てカナダDSLリストに収載されている。
オーストラリア AICS	:	インベントリーに記載されているか、従っている
ニュージーランド NZIoC	:	インベントリーに記載されているか、従っている
日本 ENCS	:	インベントリーに記載されているか、従っている
韓国 KECI	:	この製品に含まれる1つまたは複数の物質は、登録されなかったか、登録するように通知されなかったか、あるいはK-REACH規則に従ってCPChemによる登録が免除されなかった。しかしながらこの製品の輸入または製造は、韓国登録輸入業者が自らこの物質を届け出ている場合には許可される。
フィリピン PICCS	:	インベントリーに記載されているか、従っている
中国 IECSC	:	インベントリーに記載されているか、従っている
台湾 TCSI	:	インベントリーに記載されているか、従っている

Marlex® D139 Polyethylene

版番号 1.12

改訂日 2021-02-02

16. その他の情報

詳細情報

レガシー SDS 番号 : 240370

Local emergency contact number: 0532-83889090

前バージョンからの大幅な変更は、余白に強調表示されている。本バージョンは以前のすべてのバージョンと差し替えられる。

このSDSの情報は、出荷される製品のみに関連する。

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等を、安全に行っていただくために作成されたものです。記載されている情報はいかなる保証もするものではありませんし、品質を特定するものでもありません。また、このMSDSのデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料との組み合わせ使用に関しては有効ではありません。

安全データシートで使用されるキーまたは凡例から略語や頭字語まで

ACGIH	米国産業衛生専門家会議	LD50	50%致死量
AICS	オーストラリア既存化学物質インベントリー	LOAEL	最小有害影響量
DSL	カナダ国内物質リスト	NFPA	米国消防庁
NDSL	カナダ非国内物質リスト	NIOSH	米国国立労働安全衛生研究所
CNS	中枢神経系	NTP	米国国家毒性プログラム
CAS	化学情報検索サービス機関	NZIoC	ニュージーランド化学物質台帳
EC50	有効濃度	NOAEL	無毒性量
EC50	50%影響濃度	NOEC	無影響濃度
EGEST	EOSCA一般暴露シナリオツール	OSHA	労働安全衛生庁
EOSCA	欧州油性化学物質協会 (European Oilfield Specialty Chemicals Association)	PEL	許容暴露限界
EINECS	欧州既存商業化学物質インベントリー	PICCS	フィリピン商業化学物質インベントリー
MAK	ドイツ最大許容濃度	PRNT	推定無毒性
GHS	世界調和システム	RCRA	資源保全再生法
>=	以上	STEL	短時間暴露限界
IC50	50%阻害濃度	SARA	スーパーファンド改正・再承認法
IARC	国際癌研究機関	TLV	限度値
IECSC	中国現有化学物質名録	TWA	時間加重平均
ENCS	日本既存化学物質インベントリー	TSCA	有害物質規制法
KECI	韓国既存化学物質目録	UVCB	組成が不明または不定の構成物質、複雑な反応生成物及び生体物質
<=	以下	WHMIS	作業場危険有害性物質情報システム
LC50	50%致死濃度		